

令和5年度和歌山県文化賞

まつたに たけさだ
松谷 武判

住 所 フランス・パリ
出身地 大阪府大阪市
生 年 昭和12年

◎ 業績及び経歴

昭和12年大阪市に生まれる。九度山町出身の両親の元に育ち、父の仕事の関係上、昭和22年から小中学生時代の約4年間を、湯浅町、串本町、田辺市で過ごす。その後兵庫県西宮市に転居し、大阪市立工芸高等学校で日本画を学び、昭和32年第8回西宮市展日本画部に初入選。荒尾昌朔氏に師事し、新美術協会展や西宮市展で受賞を重ねる。昭和34年元永定正氏と出会い、同35年第9回具体美術展に出品。昭和38年には、戦後日本美術を高める目的で結成した具体美術協会の会員となり、発売直後のビニール接着剤を用いた有機性と官能性を感じさせる作品で注目を集める。昭和41年フランス政府留学生選抜第1回毎日美術コンクールで大賞を受賞し留学。現在に至るまでパリで制作を行う。昭和42年S. W. ヘイター氏の版画工房「アトリエ17」に入門し、銅版画の技法を習得、同45年モンパルナスの版画工房にてシルクスクリーンの作品を制作。数多くの国際展で受賞する。

昭和50年代からは、紙と鉛筆を前に自身と向き合った結果、東洋人的な墨の黒を彷彿させる、鉛筆の黒と接着剤による柔らかな凹凸を主題とした作風を確立。鉛筆の黒を塗り込めることで時間を作品に埋め込んでいく新たな境地に達した。具体美術協会の「人の真似をするな。誰もやっていない事をやれ。」という教えと東洋人的な感性を土台に五感を大事にする氏の作品は、世界的に高く評価され平成29年第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際展VIVA ARTE VIVAに選出。令和元年パリ国立近代美術館(ポンピドゥー・センター)での個展には12万人が来場した。

また、私財を投じて国籍年齢を問わず芸術家を支援する基金の設立や、本県立近代美術館の企画展への協力等、後進育成にも惜しみない力を注いでいる。

美は、人間の内側、思想や主義の手前に存在するという信念を貫く氏の作品は、万国から高く評価され、氏の功績はまさに本県が世界に誇るものである。

■ 現 在

・現代美術家

◆ 主な表彰歴等

昭和33年 第5回新美術協会展新人賞
昭和34年 第10回西宮市展日本画部市長賞
昭和41年 フランス政府留学生選抜第1回毎日美術コンクール大賞
昭和44年 第1回国際絵画フェスティバル(カーニュ・シュル・メール、フランス)プリ・ナショナル
昭和44年 第7回オーストリア国際版画展3等賞
昭和44年 第1回バルセロナ国際版画展銅版画賞
昭和48年 第1回世界版画コンクール'73展(サンフランシスコ)エディション部門買上賞
昭和51年 第5回イギリス国際版画ビエンナーレ2等賞
昭和55年 第7回リエカ国際オリジナルローイング展国際審査員賞
平成2年 第1回大阪絵画トリエンナーレ3等賞
平成14年 西宮市民文化賞
平成26年 兵庫県文化賞
平成29年 第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際展VIVA ARTE VIVE選出